【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第２区分
【発行日】平成17年10月27日(2005.10.27)

【公開番号】特開2001-149612(P2001-149612A)
【公開日】平成13年6月5日(2001.6.5)
【出願番号】特願平11-339091
【国際特許分類第７版】
　Ａ６３Ｆ　7/02
【ＦＩ】
　Ａ６３Ｆ　7/02　３２６Ｚ
　Ａ６３Ｆ　7/02　３３４

【手続補正書】
【提出日】平成17年8月30日(2005.8.30)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【書類名】　明細書
【発明の名称】　遊技機の回路基板ケース
【特許請求の範囲】
　【請求項１】　遊技機の回路基板を本体と透明な上蓋とで封止することにより、前記回路基板に実装された回路素子の不正な交換を防止する遊技機の回路基板ケースにおいて、
　前記上蓋の裏側に立設された複数の突片部材を備え、
　前記回路基板を前記本体と前記上蓋とで封止した際に、所定の回路素子の表示物上を除いた前記上蓋と前記回路基板との空間に前記突片部材の各々が位置するとともに、前記所定の回路素子の周辺に点在する前記突片部材のみが、前記上蓋と前記回路基板との間を前記所定の回路素子が移動することに対し障壁となることを特徴とする遊技機の回路基板ケース。
　【請求項２】　請求項１に記載する遊技機の回路基板ケースにおいて、
　前記回路基板を前記本体と前記上蓋とで封止した際に、前記所定の回路素子の周辺に点在する前記突片部材が、前記所定の回路素子の周囲を取り囲むことを特徴とする遊技機の回路基板ケース。
　【請求項３】　遊技機の回路基板を本体と透明な上蓋で封止することにより、前記回路基板に実装された回路素子の不正な交換を防止する遊技機の回路基板ケースにおいて、
　前記上蓋の裏側に一体的に立設されることによって中空を形成する突片部材を備え、
　前記回路基板を前記本体と前記上蓋とで封止した際に、所定の回路素子が前記突片部材の中空に存在するとともに、前記突片部材が、前記上蓋と前記回路基板との間を前記所定の回路素子が移動することに対し障壁となることを特徴とする遊技機の回路基板ケース。
　【請求項４】　請求項３に記載する遊技機の回路基板ケースにおいて、
　前記回路基板を前記本体と前記上蓋とで封止した際に、前記所定の回路素子のリード部が差し込まれたソケットの周囲を、前記突片部材が取り囲むことを特徴とする遊技機の回路基板ケース。
【発明の詳細な説明】
　【０００１】
　【発明の属する技術分野】
　本発明は、遊技機の回路基板を封止する遊技機の回路基板ケースに関する。

【０００２】

【従来の技術】

従来、パチンコ機等の遊技機においては、遊技内容をかき込んだＲＯＭがメイン基板に実装されている。そして、そのメイン基板は回路基板ケースで封止されており、これにより、ＲＯＭの不正な交換を防止している。しかし、近年のいわゆる裏ロム問題など、パチンコ機の不自然な稼働は未だ散見されていることから、ＲＯＭの不正な交換は依然として行われているものと思われる。そこで、パチンコ機のメーカー側では、回路基板ケースの封止構造に対し、種々の工夫を施している。

【０００３】

例えば、特開平１１－７６５６２号公報に記載された遊技機の制御箱では、ＲＯＭ直上面に対応する表カバー体の位置に突出部を形成する工夫がなされている。従って、表カバー体を変形させて作った隙間からＲＯＭを引き出そうとしても、かかる突出部にＲＯＭの上面が当たり、ＲＯＭを制御基板から取り外すことが困難となることから、ＲＯＭの不正な交換を防止することが可能となる。

【０００４】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、例えば、ＲＯＭ直上面に対応する表カバー体の位置に、複数の板状の突出部を形成した場合には、たとえ、表カバー体と同じ透明の樹脂で形成したとしても、これらの板状の突出部が障害となって、ＲＯＭの上面がはっきりと見えないことがある。このような場合には、上述したように、複数の板状の突出部にＲＯＭの上面が当たり、ＲＯＭを制御基板から取り外すことが困難となることによって、ＲＯＭの不正な交換を防止することが可能となったとしても、その一方では、遊技機の制御箱の外部から、ＲＯＭの上面の表示物（印刷マークや表示シールなど）を目視で確認することができないので、ＲＯＭの管理・監視に支障が生じることになる。

【０００５】

そこで、本発明は、上述した問題点を解決するためになされたものであり、上蓋の裏側に立設された突片部材により、遊技機の回路基板に実装された回路素子の不正な交換を防止すると同時に、透明な上蓋を介した表示物への目視により、回路基板に実装された回路素子の管理・監視をも確保した遊技機の回路基板ケースを提供することを目的とする。

【０００６】

【課題を解決するための手段】

この目的を達成するために成された請求項１に係る回路基板ケースは、遊技機の回路基板を本体と透明な上蓋とで封止することにより、前記回路基板に実装された回路素子の不正な交換を防止する遊技機の回路基板ケースであって、前記上蓋の裏側に立設された複数の突片部材を備え、前記回路基板を前記本体と前記上蓋とで封止した際に、所定の回路素子の表示物上を除いた前記上蓋と前記回路基板との空間に前記突片部材の各々が位置するとともに、前記所定の回路素子の周辺に点在する前記突片部材のみが、前記上蓋と前記回路基板との間を前記所定の回路素子が移動することに対し障壁となることを特徴とする。

【０００７】

また、請求項２に係る回路基板ケースは、請求項１に記載する遊技機の回路基板ケースであって、前記回路基板を前記本体と前記上蓋とで封止した際に、前記所定の回路素子の周辺に点在する前記突片部材が、前記所定の回路素子の周囲を取り囲むことを特徴とする。

【０００８】

また、請求項１又は請求項２に記載する遊技機の回路基板ケースにおいて、前記突片部材が棒状、板状又は櫛状であることが好ましい。

【０００９】

また、請求項３に係る回路基板ケースは、遊技機の回路基板を本体と透明な上蓋で封止することにより、前記回路基板に実装された回路素子の不正な交換を防止する遊技機の回路基板ケースであって、前記上蓋の裏側に一体的に立設されることによって中空を形成す

る突片部材を備え、前記回路基板を前記本体と前記上蓋とで封止した際に、所定の回路素子が前記突片部材の中空に存在するとともに、前記突片部材が、前記上蓋と前記回路基板との間を前記所定の回路素子が移動することに対し障壁となることを特徴とする。

【００１０】

また、請求項４に係る遊技機の回路基板ケースは、請求項３に記載する遊技機の回路基板ケースであって、前記回路基板を前記本体と前記上蓋とで封止した際に、前記所定の回路素子のリード部が差し込まれたソケットの周囲を、前記突片部材が取り囲むことを特徴とする。

【００１１】

また、請求項１乃至請求項４のいずれか１つに記載する遊技機の回路基板ケースにおいて、前記回路基板が前記遊技機の遊技内容を制御するメイン基板であることが好ましい。

【００１２】

【００１３】

このような構成を有する本発明の遊技機の回路基板ケースには、上蓋の裏側に複数の突片部材を立設した場合と、上蓋の裏側に突片部材を一体的に立設した場合とがある。

【００１４】

上蓋の裏側に複数の突片部材を立設した場合では、遊技機の回路基板を本体と上蓋とで封止した際に、上蓋の裏側に立設された複数の突片部材の各々が、上蓋と回路基板との空間に位置する。このとき、本体と上蓋との間を押し広げて作った隙間から所定の回路素子を引き出そうとしても、所定の回路素子の周辺に点在する突片部材が障壁となり、仮に、回路基板から所定の回路素子を取り外せたとしても、本体と上蓋との間を押し広げて作った隙間に向かって所定の回路素子を移動させることはできないので、上蓋の裏側に立設された突片部材により、遊技機の回路基板に実装された回路素子の不正な交換を防止することができる。

【００１５】

尚、上蓋の裏側に立設された複数の突片部材の形状には、棒状、板状、櫛状などがあり、それらの形状は統一させてもよいし、混在させてもよい。

【００１６】

また、遊技機の回路基板を本体と上蓋とで封止した際には、上蓋の裏側に立設された複数の突片部材の各々は、所定の回路素子の表示物上を除いた上蓋と回路基板との空間に位置し、所定の回路素子の表示物上の空間には存在しない。従って、上蓋の裏側に立設された複数の突片部材の各々は、所定の回路素子の表示物の目視に対する障害とならないので、透明な上蓋を介して、遊技機の回路基板ケースの外部から、所定の回路素子の表示物を目視で確認することができる。

【００１７】

また、上蓋の裏側に突片部材を一体的に立設した場合では、一体的に立設された突片部材によって中空が形成されている。そして、遊技機の回路基板を本体と上蓋とで封止した際には、その突片部材で形成された中空に所定の回路素子が存在している。従って、本体と上蓋との間を押し広げて作った隙間から所定の回路素子を引き出そうとしても、上蓋の裏側に一体的に立設された突片部材が障壁となり、仮に、回路基板から所定の回路素子を取り外せたとしても、本体と上蓋との間を押し広げて作った隙間に向かって所定の回路素子を移動させることができないので、上蓋の裏側に立設された突片部材により、遊技機の回路基板に実装された回路素子の不正な交換を防止することができる。

【００１８】

また、遊技機の回路基板を本体と上蓋とで封止した際には、その突片部材で形成された中空に所定の回路素子が存在し、所定の回路素子の表示物上には、透明な上蓋しか存在しない。従って、上蓋の裏側に一体的に立設された突片部材は、所定の回路素子の表示物の目視に対する障害とならないので、透明な上蓋を介して、遊技機の回路基板ケースの外部から、所定の回路素子の表示物を目視で確認することができる。

【００１９】

尚、本発明の遊技機の回路基板ケースにおいて、所定の回路素子の表示物には、製造番号などの印刷マークや、遊技内容などが印刷された表示シールなどがある。また、本発明の遊技機の回路基板ケースで封止される回路基板には、遊技機の遊技内容を制御するメイン基板などがある。そして、メイン基板を封止した場合での、所定の回路素子としては、ＣＰＵ、ＲＯＭなどがある。

【００２０】

すなわち、本発明の遊技機の回路基板ケースにおいて、上蓋の裏側に複数の突片部材を立設した場合では、遊技機の回路基板を本体と上蓋とで封止した際に、上蓋の裏側に立設された複数の突片部材の各々のうち、所定の回路素子の周辺に点在する突片部材が、上蓋と回路基板との間を所定の回路素子が移動することに対し障壁となるとともに、上蓋の裏側に立設された複数の突片部材の各々は、所定の回路素子の表示物上を除いた上蓋と回路基板との空間に位置することにより、所定の回路素子の表示物の目視に対する障害とならないので、上蓋の裏側に立設された突片部材により、遊技機の回路基板に実装された回路素子の不正な交換を防止すると同時に、透明な上蓋を介した表示物への目視により、回路基板に実装された回路素子の管理・監視をも確保することが可能となる。

【００２１】

さらに、遊技機の回路基板を本体と上蓋とで封止した際に、所定の回路素子の周辺に点在する突片部材が、所定の回路素子の周囲を取り囲んでいる場合には、上蓋と回路基板との間で所定の回路素子が移動できないことを、遊技機の回路基板ケースの外部から一見して認識させることができるから、遊技機の回路基板に実装された回路素子の不正な交換を未然に防止することに貢献できる。

【００２２】

また、本発明の遊技機の回路基板ケースにおいて、上蓋の裏側に突片部材を一体的に立設した場合では、遊技機の回路基板を本体と上蓋とで封止した際に、その突片部材で形成された中空に所定の回路素子が存在するので、上蓋の裏側に一体的に立設された突片部材は、上蓋と回路基板との間を所定の回路素子が移動することに対し障壁となるとともに、所定の回路素子の表示物の目視に対する障害とならないので、上蓋の裏側に立設された突片部材により、遊技機の回路基板に実装された回路素子の不正な交換を防止すると同時に、透明な上蓋を介した表示物への目視により、回路基板に実装された回路素子の管理・監視をも確保することが可能となる。

【００２３】

また、遊技機の回路基板を本体と上蓋とで封止した際に、その突片部材で形成された中空に所定の回路素子が存在することは、上蓋と回路基板との間で所定の回路素子が移動できないことを、遊技機の回路基板ケースの外部から一見して認識させることができるから、遊技機の回路基板に実装された回路素子の不正な交換を未然に防止することに貢献できる。

【００２４】

さらに、回路基板を本体と上蓋とで封止した際に、上蓋の裏側に一体的に立設された突片部材が、所定の回路素子のリード部が差し込まれたソケットの周囲を取り囲む場合には、その突片部材で形成された中空にそのソケットまでが存在することによって、本体と上蓋との間を押し広げて作った隙間から所定の回路素子のリード部に異物を接触させることができなくなるから、所定の回路素子のリード部に不正な電気的信号が入力されることを防止できる。

【００２５】

また、本発明の遊技機の回路基板ケースが、パチンコ機で使用される場合には、いわゆる裏ロム問題などの不正遊技対策として、上述した効果をより一層発揮させることができる。

【００２６】

【発明の実施の形態】

以下、本発明の実施の形態を図面を参照にして説明する。図２は、本実施の形態の遊技

機の回路基板ケースを示した分解斜視図であり、パチンコ機で使用されるものである。図２の遊技機の回路基板ケース１では、回路基板であるメイン基板１１が本体であるシャーシ１２に固定されている。また、メイン基板１１には、ＣＰＵ３１やＲＯＭ３３などの回路素子が実装されている。特に、ＲＯＭ３３は、ソケット３２を介してメイン基板１１に実装されている。また、ＣＰＵ３１やＲＯＭ３３の表面には、製品番号などの印刷マークが表示され（図示せず）、さらに、ＲＯＭ３３の表面には、ＲＯＭ３３に記憶した遊技内容の題名などを印刷した表示シール３４が貼付されている。また、シャーシ１２には、８個の第１突片部１４が突き出されて設けられており、さらに、第１突片部１４の各々には、第１取付孔１５が設けられている。

【００２７】

また、メイン基板１１は、透明な樹脂で作製された上蓋１３によって覆われる。その上蓋１３の上面には、基板管理証を添付する領域２や複数の空気孔が形成されている。また、上蓋１３の側面には、８個の第２突片部１６が突き出されて設けてられている。

【００２８】

かかる第２突片部１６は、図３に示すように、上蓋１３がシャーシ１２に対して定まった位置に置かれた際において、第１突片部１４の各々と接触した状態になるものである。さらに、第２突片部１６の各々には、第２取付孔１７が設けられている。かかる第２取付孔１７は、図３に示すように、上蓋１３がシャーシ１２に対して定まった位置に置かれた際において、第１突片部１４に設けられた第１取付孔１５の各々に対し、直列に連続して位置するものである。また、第２取付孔１７の各々には、図３に示すように、一方向にしか進まないねじ１８が仮止めされてある。

【００２９】

そして、上蓋１３の第２突片部１６の各々には、図３に示すように、シャーシ１２の第１突片部１４との着接側（上蓋１３の中側）のみから取り外す作業ができるとともに、シャーシ１２の第１突片部１４との反着接側（上蓋１３の外側）のみから取り付ける作業ができる着脱蓋１９が備えられており、上蓋１３の第２突片部１５の第２取付孔１７に仮止めされたねじ１８に対する外部からの接触を阻止している。尚、図３は、図２の矢視Ｑから見たものであって、第１突片部１４、第２突片部１６、ねじ１８、着脱蓋１９については、断面で示してある。また、図４に、図２の矢視Ｒから見たものであって、第１突片部１４、第２突片部１６、ねじ１８、着脱蓋１９については、断面で表したものを示す。

【００３０】

ここで、第１突片部１４、第２突片部１６、ねじ１８、着脱蓋１９について、図５を参照にして詳しく説明する。図５は、第１突片部１４、第２突片部１６、ねじ１８、着脱蓋１９を断面で表したものであって、上下に間隔をあけて示したものである。上蓋１３の第２突片部１６は、上蓋１３がシャーシ１２に対して定まった位置に置かれた際において、シャーシ１２の第１突片部１４と接触した状態になるものであるが（図３、図４参照）、かかる状態は、上蓋１３の第２突片部１６の下部の凹部に、シャーシ１２の第１突片部１４の凸部が嵌合することによって実現される。

【００３１】

さらに、上蓋１３の第２突片部１６の第２取付孔１７の下側と、シャーシ１２の第１突片部１４の第１取付孔１５の上側とが当接することによって、上蓋１３の第２突片部１６の第２取付孔１７と、シャーシ１２の第１突片部１４の第１取付孔１５とが互いに直列に連続して位置することになるが（図３、図４参照）、これらについても、上蓋１３の第２突片部１６の下部の凹部に、シャーシ１２の第１突片部１４の凸部が嵌合することによって実現される。

【００３２】

また、ねじ１８の仮止めは、上蓋１３の第２突片部１６の第２取付孔１７のみに、ねじ１８がねじ込まれることによって行われる（図３、図４参照）。

【００３３】

そして、着脱蓋１９の一対の係爪部２０が、上蓋１３の第２突片部１６の係止部２１に

係わり合うことによって、上蓋１３の第２突片部１６に着脱蓋１９が備えられる（図３、図４、図５参照）。これにより、着脱蓋１９は、上蓋１３の第２突片部１６とシャーシ１２の第１突片部１４との着接側（上蓋１３の中側）のみから取り外す作業が可能となり、さらに、上蓋１３の第２突片部１６とシャーシ１２の第１突片部１４との反着接側（上蓋１３の外側）のみから取り付ける作業が可能となる。尚、上蓋１３の第２突片部１６の内側には、上蓋１３の第２突片部１６に対して着脱蓋１９を取り外したり取り付けたりする際に着脱蓋１９の一対の係爪部２０が摺動する案内溝２４が、設けられている。

【００３４】

次に、メイン基板１１をシャーシ１２及び上蓋１３で封止する手順について説明する。先ず、上蓋１３の第２突片部１６に取り付けられた着脱蓋１９を、上蓋１３の中側（上蓋１３の第２突片部１６とシャーシ１２の第１突片部１４との着接側）から取り外して、上蓋１３の第２突片部１６から着脱蓋１９を取り出す。それには、図６～図９に示す作業を行う。先ず、図６に示すように、上蓋１３の中側（上蓋１３の第２突片部１６とシャーシ１２の第１突片部１４との着接側）から、ピンセット２２で、着脱蓋１９の一対の係爪部２０をつまむ。

【００３５】

着脱蓋１９の一対の係爪部２０をピンセット２２でつまめば、図７に示すように、着脱蓋１９の一対の係爪部２０と上蓋１３の第２突片部１６の係止部２１との係合を解除することができるので、図８に示すように、上蓋１３の第２突片部１６の内部において、着脱蓋１９の一対の係爪部２０を案内溝２４に摺動させながら上方向に移動させるとともに、着脱蓋１９の一部を上蓋１３の第２突片部１６から突き出させることができる。従って、最終的には、図９に示すように、着脱蓋１９を、上蓋１３の第２突片部１６から取り出すことができる。

【００３６】

その後、上蓋１３をシャーシ１２に対して定まった位置に置き、着脱蓋１９が取り外された上蓋１３の第２突片部１６において、図１０の右側のねじ１８のように、第２取付孔１７に仮止めされたねじ１８を、かかる第２取付孔１７に対し直列に連続して位置するシャーシ１２の第１突片部１４の第１取付孔１５までねじ込む。これにより、上蓋１３はシャーシ１２に対して定まった位置に固定されるので、メイン基板１１をシャーシ１２及び上蓋１３で封止することができる。

【００３７】

さらに、着脱蓋１９が取り外された上蓋１３の第２突片部１６に対して、シャーシ１２の第１突片部１４との反着接側（上蓋１３の外側）から着脱蓋１９を取り付ける作業を行う。それには、着脱蓋１９が取り外された上蓋１３の第２突片部１６の内部において、着脱蓋１９の一対の係爪部２０を案内溝２４に摺動させながら下方向に移動させ、着脱蓋１９の一対の係爪部２０を、上蓋１３の第２突片部１６の係止部２１に係わり合うことによって行う。

【００３８】

このとき、上蓋１３の第２突片部１６とシャーシ１２の第１突片部１４は、互いに接触した状態で固定されているので、上蓋１３の第２突片部１６に取り付けられた着脱蓋１９を、上蓋１３の第２突片部１６とシャーシ１２の第１突片部１４との着接側（上蓋１３の中側）から取り外す作業が不可能となる。

【００３９】

よって、第２取付孔１７及び第１取付孔１５にねじ込まれたねじ１８に対して、外部から接触することができなくなり、第２取付孔１７及び第１取付孔１５からねじ１８を取り外すことはできない。

【００４０】

尚、ここでは、メイン基板１１に対する封止を確実にするため、８個の第１突片部１４及び８個の第２突片部１６を、図２に示すように、対向する場所に４個ずつ分けて設けている。さらに、図４や図１０に示すように、上蓋１３をシャーシ１２にねじ２３で単に固

定する場所も多数設けている。

【００４１】

このように、メイン基板１１は、シャーシ１２及び上蓋１３によって封止されることになるが、シャーシ１２と上蓋１３との間を押し広げて作った隙間からＲＯＭ３３などの回路素子を交換しようとする不正行為の防止を確実にするため、本実施の形態の遊技機の回路基板ケース１では、上蓋１３の裏側に突片部材を設けている。そして、上蓋１３に突片部材を設けることによって、仮に、メイン基板１１から所定の回路素子を取り外せたとしても、シャーシ１２と上蓋１３との間を押し広げて作った隙間に向かって、所定の回路素子を移動させないようにしている。

【００４２】

上蓋１３に突片部材を設ける態様としては、例えば、図１に示す上蓋１３Ａがある。図１の上蓋１３Ａでは、その裏側に、複数の板状の突片部材４１～４７が立設されている。尚、各突片部材４１～４７が立設された位置については、メイン基板１１をシャーシ１２及び上蓋１３Ａで封止した際に、メイン基板１１に実装された回路素子と突き当たらないように配慮されている。

【００４３】

さらに、各突片部材４１～４７は、図１の二点鎖線で示したように、メイン基板１１をシャーシ１２及び上蓋１３Ａで封止した際に、メイン基板１１に実装されたＣＰＵ３１やＲＯＭ３３の上に位置することがないように設けられている。従って、メイン基板１１をシャーシ１２及び上蓋１３で封止した際には、ＣＰＵ３１やＲＯＭ３３の印刷マークや、ＲＯＭ３３に貼付された表示シール３４を、図１の上蓋１３Ａの外側から目視で確認することができる。

尚、図１の上蓋１３Ａでは、図面を簡明にするために、図２の上蓋１３と同様にして設けられている空気孔を省略している。

【００４４】

また、図１に示すように、突片部材４１と突片部材４２との間隔、突片部材４１と突片部材４３との間隔、突片部材４２と突片部材４４との間隔、突片部材４３と突片部材４４との間隔、突片部材４４と突片部材４５との間隔、突片部材４４と突片部材４６との間隔、突片部材４５と突片部材４７との間隔、突片部材４６と突片部材４７との間隔は、仮に、シャーシ１２と上蓋１３との間を押し広げて作った隙間を介して、メイン基板１１からＣＰＵ３１やＲＯＭ３３が取り外せたとしても、ＣＰＵ３１やＲＯＭ３３が通過できないように設けられている。従って、それらの間隔は、ＣＰＵ３１やＲＯＭ３３が通過できないように設けられていればよく、全て統一させる必要はない。

【００４５】

また、図１１に示すように、各突片部材４１～４７の高さは、仮に、シャーシ１２と上蓋１３Ａとの間を押し広げて作った隙間を介して、メイン基板１１からＣＰＵ３１やＲＯＭ３３が取り外せたとしても、メイン基板１１との間からＣＰＵ３１やＲＯＭ３３が通過できないように設けられている。すなわち、各突片部材４１～４７の高さは、メイン基板１１との間からＣＰＵ３１やＲＯＭ３３が通過できないように設けられていればよく、メイン基板１１との間を全て統一させる必要はない。

【００４６】

以上より、本実施の形態の遊技機の回路基板ケース１においては、シャーシ１２と図１の上蓋１３Ａを使用してメイン基板１１を封止すれば、シャーシ１２と図１の上蓋１３Ａとの間を押し広げて作った隙間からＣＰＵ３１やＲＯＭ３３を引き出そうとしても、ＣＰＵ３１やＲＯＭ３３の周辺に点在する突片部材４１～４７が障壁となり、仮に、メイン基板１１からＣＰＵ３１やＲＯＭ３３を取り外せたとしても、シャーシ１２と図１の上蓋１３Ａとの間を押し広げて作った隙間に向かってＣＰＵ３１やＲＯＭ３３を移動させることはできないので、図１の上蓋１３Ａの裏側に立設された突片部材４１～４７により、パチンコ機のメイン基板１１に実装されたＣＰＵ３１やＲＯＭ３３の不正な交換を防止することができる。

【００４７】
また、図１の上蓋１３Ａにおいては、突片部材４１～４７の補強のため、リブを設けてもよい。例えば、突片部材４２と突片部材４３との間に補強が必要な場合には、図１２に示す上蓋１２Ｂのように、突片部材４２と突片部材４３との間に突片部材４８をリブとして設ける。このとき、突片部材４８は、図１２の二点鎖線で示したように、メイン基板１１をシャーシ１２及び上蓋１３Ａで封止した際において、ＣＰＵ３１の印刷マーク（図示せず）上や、ＲＯＭ３３の印刷マーク（図示せず）や表示シール３４上に、位置することがないように設けられる。従って、メイン基板１１をシャーシ１２及び図１２の上蓋１３Ｂで封止した際には、ＣＰＵ３１やＲＯＭ３３の印刷マーク（図示せず）や、ＲＯＭ３３に貼付された表示シール３４を、図１２の上蓋１３Ｂの外側から目視で確認することができる。
尚、図１２の上蓋１３Ｂでは、図面を簡明にするために、図２の上蓋１３と同様にして設けられている空気孔を省略している。

【００４８】
また、リブとして設けられた突片部材４８は、その高さによっては、ソケット３２からＲＯＭ３３が引き抜かれることを防止することも可能である。しかし、上述したように、シャーシ１２と図２の上蓋１３Ｂとの間を押し広げて作った隙間からＣＰＵ３１やＲＯＭ３３を引き出そうとしても、ＣＰＵ３１やＲＯＭ３３の周辺に点在する突片部材４１～４７が障壁となるため、突片部材４８を高くする必要はない。むしろ、ＲＯＭ３３の印刷マーク（図示せず）や表示シール３４を、上蓋１３Ｂの外側から目視で確認する観点からすれば、図１３に示すように、突片部材４８は、リブとしての補強目的が達成される程度の高さで十分である。

【００４９】
また、図１の上蓋１３Ａにおいては、突片部材４１～４７は板状のものであったが、櫛状のものであってもよい。さらに、突片部材４１～４７を、図１４の上蓋１３Ｃのように、複数の棒状の突片部材４９で立設してもよい。但し、各突片部材４９の間隔は、仮に、シャーシ１２と図１４の上蓋１３Ｃとの間を押し広げて作った隙間を介して、メイン基板１１からＣＰＵ３１やＲＯＭ３３が取り外せたとしても、ＣＰＵ３１やＲＯＭ３３が通過できないように設ける。もっとも、各突片部材４９の間隔は、ＣＰＵ３１やＲＯＭ３３が通過できないように設けられていればよく、全て統一させる必要はない。
尚、図１４の上蓋１３Ｃでは、図面を簡明にするために、図２の上蓋１３と同様にして設けられている空気孔を省略している。

【００５０】
また、各突片部材４９の高さは、仮に、シャーシ１２と図１４の上蓋１３Ｃとの間を押し広げて作った隙間を介して、メイン基板１１からＣＰＵ３１やＲＯＭ３３が取り外せたとしても、メイン基板１１との間からＣＰＵ３１やＲＯＭ３３が通過できないように設ける。もっとも、各突片部材４９の高さは、メイン基板１１との間からＣＰＵ３１やＲＯＭ３３が通過できないように設けられていればよく、メイン基板１１との間を全て統一させる必要はない。

【００５１】
また、上蓋１３に突片部材を設ける態様としては、例えば、図１５に示す上蓋１３Ｄがある。図１５の上蓋１３Ｄでは、その裏側に、板状の突片部材５０が一体的に立設されている。尚、一体的に立設された突片部材５０の位置については、メイン基板１１をシャーシ１２及び図１５の上蓋１３Ｄで封止した際に、メイン基板１１に実装された回路素子と突き当たらないように配慮されている。

【００５２】
また、突片部材５０を一体的に立設したことにより、メイン基板１１のソケット３２が入る大きさの中空が形成されている。そして、メイン基板１１をシャーシ１２及び図１５の上蓋１３Ｄで封止した際には、図１５の二点鎖線で示すように、メイン基板１１のソケット３２及びそれに差し込まれたＲＯＭ３３が、突片部材５０の中空に位置する。従って

、メイン基板１１をシャーシ１２及び図１５の上蓋１３Ｄで封止した際には、ＣＰＵ３１やＲＯＭ３３の印刷マーク（図示せず）や、ＲＯＭ３３に貼付された表示シール３４を、図１５の上蓋１３Ｄの外側から目視で確認することができる。

尚、図１５の上蓋１３Ｄでは、図面を簡明にするために、図２の上蓋１３と同様にして設けられている空気孔を省略している。

【００５３】

また、図１６に示すように、メイン基板１１をシャーシ１２及び図１５の上蓋１３Ｄで封止した際には、メイン基板１１のソケット３２及びそれに差し込まれたＲＯＭ３３の周囲は、一体的に立設された突片部材５０で取り囲まれる。また、一体的に立設された突片部材５０の高さは、メイン基板１１のソケット３２の側面にまで達している。

【００５４】

従って、本実施の形態の遊技機の回路基板ケース１においては、シャーシ１２と図１５の上蓋１３Ｄを使用してメイン基板１１を封止すれば、シャーシ１２と図１５の上蓋１３Ｄとの間を押し広げて作った隙間からＲＯＭ３３を引き出そうとしても、ＲＯＭ３３を取り囲んだ突片部材５０が障壁となり、仮に、メイン基板１１からＲＯＭ３３を取り外せたとしても、シャーシ１２と図１５の上蓋１３Ｄとの間を押し広げて作った隙間に向かってＲＯＭ３３を移動させることはできないので、図１５の上蓋１３Ｄの裏側に一体的に立設された突片部材５０により、パチンコ機のメイン基板１１に実装されたＲＯＭ３３の不正な交換を防止することができる。

【００５５】

また、シャーシ１２と図１５の上蓋１３Ｄとの間を押し広げて作った隙間からＲＯＭ３３のリード部（図示せず）に異物を接触させることができなくなるから、ＲＯＭ３３のリード部（図示せず）に不正な電気的信号が入力されることを防止できる。

【００５６】

尚、図１５の上蓋１３Ｄにおいては、パチンコ機のメイン基板１１に実装されたＣＰＵ３１の不正な交換を防止することができない。そこで、図１５の上蓋１３Ｄの突片部材５０を図１７の上蓋１３Ｅのような突片部材５１に改良すれば、パチンコ機のメイン基板１１に実装されたＣＰＵ３１の不正な交換をも防止することが可能となる。

【００５７】

以上詳細に説明したように、本実施の形態の遊技機の回路基板ケース１には、複数の突片部材４１～４７を裏側に立設した上蓋１３Ａ、１３Ｂ（図１、１２参照）と、複数の突片部材４９を裏側に立設した上蓋１３Ｃ（図１４参照）と、突片部材５０を一体的に裏側に立設した上蓋１３Ｄ（図１５参照）と、突片部材５１を一体的に裏側に立設した上蓋１３Ｅ（図１７参照）がある。

【００５８】

複数の突片部材４１～４７を裏側に立設した上蓋１３Ａ、１３Ｂ（図１、１２参照）と、複数の突片部材４９を裏側に立設した上蓋１３Ｃ（図１４参照）との場合では、パチンコ機のメイン基板１１をシャーシ１２と上蓋１３Ａ、１３Ｂ、１３Ｃのいずれかで封止した際に、上蓋１３Ａ、１３Ｂ、１３Ｃの裏側に立設された複数の突片部材４１～４９の各々が、上蓋１３Ａ、１３Ｂ、１３Ｃとメイン基板１１との空間に位置する（図１１、図１３参照）。

【００５９】

このとき、シャーシ１２と上蓋１３Ａ、１３Ｂ、１３Ｃとの間を押し広げて作った隙間からＣＰＵ３１やＲＯＭ３３を引き出そうとしても、ＣＰＵ３１やＲＯＭ３３の周辺に点在する突片部材４１～４９が障壁となり、仮に、メイン基板１１からＣＰＵ３１やＲＯＭ３３を取り外せたとしても、シャーシ１２と上蓋１３Ａ、１３Ｂ、１３Ｃとの間を押し広げて作った隙間に向かってＣＰＵ３１やＲＯＭ３３を移動させることはできないので、上蓋１３Ａ、１３Ｂ、１３Ｃの裏側に立設された突片部材４１～４９により、パチンコ機のメイン基板１１に実装されたＣＰＵ３１やＲＯＭ３３の不正な交換を防止することができる。

【００６０】
また、パチンコ機のメイン基板１１をシャーシ１２と上蓋１３Ａ、１３Ｂ、１３Ｃのいずれかで封止した際には、上蓋１３Ａ、１３Ｂ、１３Ｃの裏側に立設された複数の突片部材４１～４９の各々は、ＣＰＵ３１やＲＯＭ３３の印刷マーク（図示せず）上と、ＲＯＭ３３に貼付された表示シール３４上とを除いた、上蓋１３Ａ、１３Ｂ、１３Ｃとメイン基板１１との空間に位置し、ＣＰＵ３１やＲＯＭ３３の印刷マーク（図示せず）上と、ＲＯＭ３３に貼付された表示シール３４上との空間には存在しない（図１、図１２、図１４参照）。従って、上蓋１３Ａ、１３Ｂ、１３Ｃの裏側に立設された複数の突片部材４１～４９の各々は、ＣＰＵ３１やＲＯＭ３３の印刷マーク（図示せず）や、ＲＯＭ３３に貼付された表示シール３４の目視に対する障害とならないので、透明な上蓋１３Ａ、１３Ｂ、１３Ｃを介して、遊技機の回路基板ケース１の外部から、ＣＰＵ３１やＲＯＭ３３の印刷マーク（図示せず）や、ＲＯＭ３３に貼付された表示シール３４を目視で確認することができる。

【００６１】
また、突片部材５０を一体的に裏側に立設した上蓋１３Ｄ（図１５参照）と、突片部材５１を一体的に裏側に立設した上蓋１３Ｅ（図１７参照）の場合では、一体的に立設された突片部材５０、５１によって中空が形成されている。そして、パチンコ機のメイン基板１１をシャーシ１２と上蓋１３Ｄ、１３Ｅのいずれかで封止した際には、その突片部材５０、５１で形成された中空にＲＯＭ３３又はＣＰＵ３１が存在している（図１５、図１６、図１７参照）。従って、シャーシ１２と上蓋１３Ｄ、１３Ｅとの間を押し広げて作った隙間からＲＯＭ３３又はＣＰＵ３１を引き出そうとしても、上蓋１３Ｄ、１３Ｅの裏側に一体的に立設された突片部材５０、５１が障壁となり、仮に、メイン基板１１からＲＯＭ３３又はＣＰＵ３１を取り外せたとしても、シャーシ１２と上蓋１３Ｄ、１３Ｅとの間を押し広げて作った隙間に向かってＲＯＭ３３又はＣＰＵ３１を移動させることができないので、上蓋１３Ｄ、１３Ｅの裏側に立設された突片部材５０、５１により、パチンコ機のメイン基板１１に実装されたＲＯＭ３３又はＣＰＵ３１の不正な交換を防止することができる。

【００６２】
また、パチンコ機のメイン基板１１をシャーシ１２と上蓋１３Ｄ、１３Ｅのいずれかで封止した際には、その突片部材５０、５１で形成された中空にＲＯＭ３３又はＣＰＵ３１が存在し、ＣＰＵ３１やＲＯＭ３３の印刷マーク（図示せず）上と、ＲＯＭ３３に貼付された表示シール３４上には、透明な上蓋１３Ｄ、１３Ｅしか存在しない（図１５、図１７参照）。従って、上蓋１３Ｄ、１３Ｅの裏側に一体的に立設された突片部材５０、５１は、ＣＰＵ３１やＲＯＭ３３の印刷マーク（図示せず）や、ＲＯＭ３３に貼付された表示シール３４の目視に対する障害とならないので、透明な上蓋１３Ｄ、１３Ｅを介して、遊技機の回路基板ケース１の外部から、ＣＰＵ３１やＲＯＭ３３の印刷マーク（図示せず）や、ＲＯＭ３３に貼付された表示シール３４を目視で確認することができる。

【００６３】
すなわち、本実施の形態の遊技機の回路基板ケース１において、複数の突片部材４１～４７を裏側に立設した上蓋１３Ａ、１３Ｂと、複数の突片部材４９を裏側に立設した上蓋１３Ｃとの場合では、パチンコ機のメイン基板１１をシャーシ１２と上蓋１３Ａ、１３Ｂ、１３Ｃのいずれかで封止した際に、上蓋１３Ａ、１３Ｂ、１３Ｃの裏側に立設された複数の突片部材４１～４９の各々のうち、ＣＰＵ３１やＲＯＭ３３の周辺に点在する突片部材４１～４７、４９が、上蓋１３Ａ、１３Ｂ、１３Ｃとメイン基板１１との間をＣＰＵ３１やＲＯＭ３３が移動することに対し障壁となるとともに、上蓋１３Ａ、１３Ｂ、１３Ｃの裏側に立設された複数の突片部材４１～４９の各々は、ＣＰＵ３１やＲＯＭ３３の印刷マーク（図示せず）上と、ＲＯＭ３３に貼付された表示シール３４上を除いた、上蓋１３Ａ、１３Ｂ、１３Ｃとメイン基板１１との空間に位置することにより、ＣＰＵ３１やＲＯＭ３３の印刷マーク（図示せず）や、ＲＯＭ３３に貼付された表示シール３４の目視に対する障害とならないので、上蓋１３Ａ、１３Ｂ、１３Ｃの裏側に立設された突片部材４１

～４９により、パチンコ機のメイン基板１１に実装されたＣＰＵ３１やＲＯＭ３３の不正な交換を防止すると同時に、透明な上蓋１３Ａ、１３Ｂ、１３Ｃを介した、ＣＰＵ３１やＲＯＭ３３の印刷マーク（図示せず）や、ＲＯＭ３３に貼付された表示シール３４への目視により、メイン基板１１に実装されたＣＰＵ３１やＲＯＭ３３の管理・監視をも確保することが可能となる。

【００６４】

さらに、図示はしないが、パチンコ機のメイン基板１１をシャーシ１２と上蓋１３Ａ、１３Ｂ、１３Ｃのいずれかで封止した際に、ＣＰＵ３１やＲＯＭ３３の周辺に点在する突片部材４１～４７、４９が、ＣＰＵ３１やＲＯＭ３３の周囲を取り囲むように配置されていれば、上蓋１３Ａ、１３Ｂ、１３Ｃとメイン基板１１との間でＣＰＵ３１やＲＯＭ３３が移動できないことを、遊技機の回路基板ケース１の外部から一見して認識させることができるから、パチンコ機のメイン基板１１に実装されたＣＰＵ３１やＲＯＭ３３の不正な交換を未然に防止することに貢献できる。

【００６５】

また、本実施の遊技機の回路基板ケース１において、突片部材５０を一体的に裏側に立設した上蓋１３Ｄと、突片部材５１を一体的に裏側に立設した上蓋１３Ｅの場合では、パチンコ機のメイン基板１１をシャーシ１２と上蓋１３Ｄ、１３Ｅのいずれかで封止した際は、その突片部材５０、５１で形成された中空にＲＯＭ３３又はＣＰＵ３１が存在するので、上蓋１３Ｄ、１３Ｅの裏側に一体的に立設された突片部材５０、５１は、上蓋１３Ｄ、１３Ｅとメイン基板１１との間をＲＯＭ３３又はＣＰＵ３１が移動することに対し障壁となるとともに、ＣＰＵ３１やＲＯＭ３３の印刷マーク（図示せず）や、ＲＯＭ３３に貼付された表示シール３４の目視に対する障害とならないので、上蓋１３Ｄ、１３Ｅの裏側に立設された突片部材５０、５１により、パチンコ機のメイン基板１１に実装されたＲＯＭ３３又はＣＰＵ３１の不正な交換を防止すると同時に、透明な上蓋１３Ｄ、１３Ｅを介した、ＣＰＵ３１やＲＯＭ３３の印刷マーク（図示せず）と、ＲＯＭ３３に貼付された表示シール３４への目視により、回路基板１１に実装されたＲＯＭ３３又はＣＰＵ３１の管理・監視をも確保することが可能となる。

【００６６】

また、パチンコ機のメイン基板１１をシャーシ１２と上蓋１３Ｄ、１３Ｅのいずれかで封止した際に、その突片部材５０、５１で形成された中空にＲＯＭ３３又はＣＰＵ３１が存在することは、上蓋１３Ｄ、１３Ｅとメイン基板１１との間でＲＯＭ３３又はＣＰＵ３１が移動できないことを、遊技機の回路基板ケース１の外部から一見して認識させることができるから、遊技機のメイン基板１１に実装されたＲＯＭ３３又はＣＰＵ３１の不正な交換を未然に防止することに貢献できる。

【００６７】

さらに、パチンコ機のメイン基板１１をシャーシ１２と上蓋１３Ｄ、１３Ｅのいずれかで封止した際に、上蓋１３Ｄ、１３Ｅの裏側に一体的に立設された突片部材５０、５１が、ＲＯＭ３３のリード部が差し込まれたソケット３２の周囲を取り囲んでおり（図１６参照）、その突片部材５０、５１で形成された中空にそのソケット３２までが存在することによって、シャーシ１２と上蓋１３Ｄ、１３Ｅとの間を押し広げて作った隙間からＲＯＭ３３のリード部に異物を接触させることができなくなるから、ＲＯＭ３３のリード部に不正な電気的信号が入力されることを防止できる。

【００６８】

また、本実施の形態の遊技機の回路基板ケース１は、パチンコ機で使用されているので、いわゆる裏ロム問題などの不正遊技対策として、上述した効果をより一層発揮させることができる。

【００６９】

尚、本発明は上記実施の形態に限定されるものでなく、その趣旨を逸脱しない範囲で様々な変更が可能である。

例えば、上蓋１３Ａ、１３Ｂ、１３Ｃ、１３Ｄ、１３Ｅのいずれかに設けられる突片部

材４１～５１は、上蓋１３Ａ、１３Ｂ、１３Ｃ、１３Ｄ、１３Ｅと同じ透明の樹脂で作製されているが、透明性のないもので製作しても、ＣＰＵ３１やＲＯＭ３３の印刷マーク（図示せず）や、ＲＯＭ３３に貼付された表示シール３４への目視に対して悪影響を及ぼすことはない。

【００７０】

また、上蓋１３Ａ、１３Ｂに設けられた突片部材４１～４８や、上蓋１３Ｃに設けられた各突片部材４９においては、それらの形状は全て統一されているが、混在させても、上述した効果を得ることは可能である。

【００７１】

また、上蓋１３Ｅの裏側に一体的に立設された突片部材５１は、ソケット３２に差し込まれたＲＯＭ３３のリード部に不正な電気的信号が入力されることを防止するものであるが、ＣＰＵ３１をソケットに差し込むことによって、メイン基板１１に実装させるようにすれば、その突片部材５１で形成された中空にそのソケットまでが存在することによって、ＣＰＵ３１のリード部に不正な電気的信号が入力されることを防止することも可能となる。

【００７２】

また、本実施の形態の遊技機の回路基板ケース１では、パチンコ機のメイン基板１１に実装されたＲＯＭ３３又はＣＰＵ３１の不正な交換を防止すると同時に、ＣＰＵ３１やＲＯＭ３３の印刷マーク（図示せず）や、ＲＯＭ３３に貼付された表示シール３４への目視により、回路基板１１に実装されたＲＯＭ３３又はＣＰＵ３１の管理・監視をも確保するものであるが、ＣＰＵ３１やＲＯＭ３３以外の回路素子や、メイン基板１１以外の回路基板を、その対象としてもよい。

また、本実施の形態の遊技機の回路基板ケース１は、パチンコ機で使用されているが、その他の遊技機において使用してもよい。

【００７３】

【発明の効果】

本発明の遊技機の回路基板ケースにおいて、上蓋の裏側に複数の突片部材を立設した場合では、遊技機の回路基板を本体と上蓋とで封止した際に、上蓋の裏側に立設された複数の突片部材の各々のうち、所定の回路素子の周辺に点在する突片部材が、上蓋と回路基板との間を所定の回路素子が移動することに対し障壁となるとともに、上蓋の裏側に立設された複数の突片部材の各々は、所定の回路素子の表示物上を除いた上蓋と回路基板との空間に位置することにより、所定の回路素子の表示物の目視に対する障害とならないので、上蓋の裏側に立設された突片部材により、遊技機の回路基板に実装された回路素子の不正な交換を防止すると同時に、透明な上蓋を介した表示物への目視により、回路基板に実装された回路素子の管理・監視をも確保することが可能となる。

【００７４】

さらに、遊技機の回路基板を本体と上蓋とで封止した際に、所定の回路素子の周辺に点在する突片部材が、所定の回路素子の周囲を取り囲んでいる場合には、上蓋と回路基板との間で所定の回路素子が移動できないことを、遊技機の回路基板ケースの外部から一見して認識させることができるから、遊技機の回路基板に実装された回路素子の不正な交換を未然に防止することに貢献できる。

【００７５】

また、本発明の遊技機の回路基板ケースにおいて、上蓋の裏側に突片部材を一体的に立設した場合では、遊技機の回路基板を本体と上蓋とで封止した際に、その突片部材で形成された中空に所定の回路素子が存在するので、上蓋の裏側に一体的に立設された突片部材は、上蓋と回路基板との間を所定の回路素子が移動することに対し障壁となるとともに、所定の回路素子の表示物の目視に対する障害とならないので、上蓋の裏側に立設された突片部材により、遊技機の回路基板に実装された回路素子の不正な交換を防止すると同時に、透明な上蓋を介した表示物への目視により、回路基板に実装された回路素子の管理・監視をも確保することが可能となる。

【００７６】
また、遊技機の回路基板を本体と上蓋とで封止した際に、その突片部材で形成された中空に所定の回路素子が存在することは、上蓋と回路基板との間で所定の回路素子が移動できないことを、遊技機の回路基板ケースの外部から一見して認識させることができるから、遊技機の回路基板に実装された回路素子の不正な交換を未然に防止することに貢献できる。

【００７７】
さらに、回路基板を本体と上蓋とで封止した際に、上蓋の裏側に一体的に立設された突片部材が、所定の回路素子のリード部が差し込まれたソケットの周囲を取り囲む場合には、その突片部材で形成された中空にそのソケットまでが存在することによって、本体と上蓋との間を押し広げて作った隙間から所定の回路素子のリード部に異物を接触させることができなくなるから、所定の回路素子のリード部に不正な電気的信号が入力されることを防止できる。

【００７８】
また、本発明の遊技機の回路基板ケースが、パチンコ機で使用される場合には、いわゆる裏ロム問題などの不正遊技対策として、上述した効果をより一層発揮させることができる。

【図面の簡単な説明】

【図１】
遊技機の回路基板ケースの上蓋の一例を示した正面図である。

【図２】
遊技機の回路基板ケースを示した分解斜視図である。

【図３】
図２の矢視Ｑから見た図であって、第１突片部、第２突片部、ねじ、着脱蓋については、断面で示したものである。

【図４】
図２の矢視Ｒから見た図であって、第１突片部、第２突片部、ねじ、着脱蓋については、断面で示したものである。

【図５】
第１突片部、第２突片部、ねじ、着脱蓋を断面で表した図であって、上下に間隔をあけて示したものである。

【図６】
上蓋の第２突片部に取り付けられた着脱蓋を、上蓋の中側（上蓋の第２突片部とシャーシの第１突片部との着接側）から取り外す際の第１段階を示した図である。

【図７】
上蓋の第２突片部に取り付けられた着脱蓋を、上蓋の中側（上蓋の第２突片部とシャーシの第１突片部との着接側）から取り外す際の第２段階を示した図である。

【図８】
上蓋の第２突片部に取り付けられた着脱蓋を、上蓋の中側（上蓋の第２突片部とシャーシの第１突片部との着接側）から取り外す際の第３段階を示した図である。

【図９】
上蓋の第２突片部に取り付けられた着脱蓋を、上蓋の中側（上蓋の第２突片部とシャーシの第１突片部との着接側）から取り外す際の最終段階を示した図である。

【図１０】
図４において、メイン基板をシャーシ及び上蓋で封止した際における一例を示した断面図である。

【図１１】
図１の線Ａ－Ａで切断した断面の一部を示す図である。

【図１２】
遊技機の回路基板ケースの上蓋の一例を示した正面図である。

【図１３】
図１２の線Ｂ－Ｂで切断した断面の一部を示す図である。
【図１４】
遊技機の回路基板ケースの上蓋の一例を示した正面図である。
【図１５】
遊技機の回路基板ケースの上蓋の一例を示した正面図である。
【図１６】
図１５の線Ｄ－Ｄで切断した断面の一部を示す図である。
【図１７】
遊技機の回路基板ケースの上蓋の一例を示した正面図である。
【符号の説明】
１　遊技機の回路基板ケース
１１　メイン基板
１２　シャーシ
１３Ａ～１３Ｅ　上蓋
３１　ＣＰＵ
３２　ソケット
３３　ＲＯＭ
３４　表示シール
４１～５１　突片部材